



ひとつぶの種

杭州日本人学校
学校便り第142号
令和2年11月号

読書を通して「国語力」を育む

秋真っ盛り、昼間はまだまだ暖かく日差しが心地よいものの、朝夕は肌寒くなり、もう一枚羽織る上着が必要な時季になりました。学校では、11月14日（土）に開催される学習・生活発表会に向け、どの学年の練習も熱気を帯びてきています。教室や音楽室、さらには体育館から、セリフや歌声、そして合奏の音色が聞こえてきます。杭州っ子たちが、本番でどのような発表を披露してくれるのか、期待しています。



さて、秋といえば「読書の秋」。昨年度も記載しましたが、日本では10月27日（火）から11月9日（月）までの2週間が「全国読書週間」です。今年の読書週間の標語は、「ラストページまで駆け抜けて」です。学校では、11月の生活目標を「たくさん本を読もう」とし、図書委員会が「読書クイズ」や「読書郵便」といった取り組みを行います。

9月に実施しました「児童生徒用学校アンケート」では、『学校や家で本を読んでいる』という設問に、好意的な回答（よくあてはまる、ややあてはまる）が88%、否定的な回答（あまりあてはまらない、あてはまらない）が12%という結果になっています。また、同時期に行った「保護者アンケート」では、『お子さんは学校や家で本を読んでいる』という設問に、好意的な回答が80%、否定的な回答が20%という結果になっています。このことから、本校の子どもたちは、学校や家庭で読書をする習慣が概ね身に付いている状況が見て取れます。

小さい時から書物に親しみ、読書の喜びや楽しみを知ること、そして、読書によって培われる読解力や思考力、様々な知識を身に付けることは、次代を担う子どもたちにとってとても大切なことです。また、読書は様々な考え方や生き方に触れることにより、視野を広げ想像力を育む側面もあります。こういったあらゆる学習の基礎となる『国語力』を伸ばしていけることが、読書の重要な意義であると思っています。

本との出会いは演出できます。読み聞かせをする、読んだ本の感想を親子で伝え合う、読んでみて面白いと思った本を紹介し合うといった、読書の機会の拡大や読書意欲の向上を図る工夫を生活の中に取り入れていただけたらと思います。親子で静かな読書の時間を共有できれば、温かい家族の絆を感じることもできるでしょう。「読書の秋」、たくさんの素晴らしい本と出会ってほしいと願っています。

